

原 著

矯正歯科治療後における患者および保護者へのアンケート調査

影山康子 大鶴次郎 影山 徹 倉田和之 大澤雅樹 山田一尋
松本歯科大学歯科矯正学講座

KAGEYAMA Yasuko, OTSURU Jiro, KAGEYAMA Toru, KURATA Kazuyuki, OSAWA Masaki, YAMADA Kazuhiro
Department of Orthodontics, Matsumoto Dental University

キーワード：アンケート調査，矯正治療に関する評価，患者および保護者の評価

抄録：近年における患者・保護者の意識を把握し，矯正治療に対する認識と問題点を調査するためにアンケート調査を行った。2008年7月から2009年3月の9か月間，歯科大学の矯正歯科で動的治療を終了した患者121名とその保護者48名を対象として，以下の結果を得た。

1. 矯正治療終了時期と期間は，高校生までに終了を希望しているものが多く，短い治療期間を望んでいた。
2. 矯正治療を受けることに関しては，「自分の歯並びが悪かったので仕方ない」と感じる患者が半数を占めていた。治療中の評価では，「途中でやめたい」と感じた患者は全体の約1/3であり，その理由として「装置の不快感」，「治療の長期化」が多かった。また，装置の外観を「恥ずかしい」と感じた患者は，成人の金属ブラケット使用者でも17%と低く，矯正治療がより一般化している傾向がみられた。
3. 治療後の評価では，歯並びに満足した患者・保護者は有意に多く，矯正治療を受けてよかったと回答した患者・保護者は90%を超え，治療の効果が認められた。治療後は歯ブラシの習慣の改善に加え，成人では矯正治療後に自分の性格や習慣に変化が生じたと考えており，心理面での効果も認められた。
4. 他人の歯並びが気になると答えた患者は半数以下であり，他人の歯並びへの関心は低かった。将来，自分の子供に矯正治療を受けさせると考える患者は70%以上と多く，治療の必要性や効果が評価された。

以上の結果より，矯正治療について患者・保護者の意識や要望が把握でき，今後の矯正治療の対応について多くの示唆が得られた。

(Orthod Waves-Jpn Ed 2011 ; 70(1) : 7-20)

Questionnaire survey of patients and guardians after orthodontic treatment

Abstract : The purpose of this study was to investigate the current opinions regarding post-orthodontic patients and their guardians. A questionnaire for collecting demographic and behavior variables was used in this study. Samples of 121 patients under observation at a dental university hospital and 48 of their guardians were selected sequentially from July 2008 to March 2009.

1. Many patients would like to finish treatment before completing high school and if possible, earlier.
2. As regards to orthodontic care, half the participants felt there was no choice for receiving treatment. One third of patients wished for discontinuation during treatment. Appliance discomfort and prolongation of treatment were indicated as the main reasons. According to adult patients using metal braces, only 17% of those felt "shy" about using appliances, indicating that orthodontic treatment has become widely accepted in Japanese society.
3. More than ninety percent of the patients and guardians were satisfied with treatment according to post-orthodontic assessment. They changed not only their toothbrushing behavior but also their personality and attitude, which may affect their mental state.
4. Less than half the patients paid attention to others' alignment of teeth. However, >70% of patients considered supporting their children if they required orthodontic treatment, indicating that their orthodontic history led to a successful experience.

These results reveal how orthodontic patients and their guardians feel about treatment; questionnaire surveys may contribute to improvement of practice.

(Orthod Waves-Jpn Ed 2011 ; 70(1) : 7-20)

歯科矯正治療に関するアンケート
— 矯正治療が終了した患者様へ —

ご回答いただいた日 年 月 日

1. あなたの性別は?
男 女
2. 現在の年齢は?
歳 月 日
3. 動的治療が終わってどのくらい経ちましたか?
終わったばかり 1年未満
1年～2年未満 2年～4年未満
4年～10年未満 10年以上
その他 ()
4. 矯正治療に通った期間はどうか?
短かった どちらともいえない 長かった
5. 歯並びを治すことに関してどう思いましたか?
自分の歯並びが悪かったので仕方がない 楽しい経験だ
一つの貴重な経験だ 貴重な期間と費用を費やして、腹立たしい
何とも思わない わからぬ その他 ()
6. いまごろ治療を受け始めれば良かったと思いませんか?
小学校入学前 小学1,2年 小学3,4年 小学5,6年 中学生
高校生 大学生 それ以降:()才
7. いまごろから矯正治療を始めましたか?
小学校入学前 小学1,2年 小学3,4年 小学5,6年 中学生
高校生 大学生 それ以降:()才
8. いまごろ治療が終われば良かったと思いませんか?
小学校入学前 小学1,2年 小学3,4年 小学5,6年 中学生
高校生 大学生 それ以降:()才
9. いまごろ矯正装置をはずしましたか?
小学校入学前 小学1,2年 小学3,4年 小学5,6年 中学生
高校生 大学生 それ以降:()才
10. 途中で矯正治療をやめたいと思ったことがありましたか?
あった どちらともいえない なかった
やめたいと思った人は、その理由は何でしたか?
該当する項目があれば、何項目でもいいですから○をつけて下さい。
・装置をつけているのが嫌になった ・受験の時期になった
・もう治つたと思った ・あまりに長期間過ぎると思った
・全然治っていないと思った ・気分が落ち着かないので嫌だった
・治療する必要がないと思った ・その他 ()
・学校(仕事)を休むのが嫌になった
11. 近くの歯医者さんで矯正治療を受けられると便利だと思いませんか?
思った やはり大学病院が良いと思った その他 ()

12. 装置を外した時の歯並びはどうか?
大満足 満足 どちらともいえない 不満 大不満
13. 現在の歯並びに満足していますか?
はい どちらともいえない いいえ
14. 矯正治療を行って歯並びがよくなったと思いませんか?
はい どちらともいえない いいえ
15. 矯正治療を行って口もとの感じがよくなったと思いませんか?
はい どちらともいえない いいえ
16. 横顔や口もとの感じは気に入っていますか?
はい どちらともいえない いいえ
17. 歯並びが治ったことで、自分の性格や習慣が変わったと思いませんか?
はい どちらともいえない いいえ
該当する項目があれば、何項目でもいいですから○をつけて下さい。
・矯正治療を受ける前に比べて積極的になった
・矯正治療を受ける前に比べて明るくなった
・矯正治療を受ける前に比べて自信をもつようになった
・矯正治療を受ける前に比べて人前になるとき恥ずかしさがなくなった
・矯正治療を受ける前に比べてきちんと歯を磨くようになった
18. 現在、他の人の歯並びが気になりますか?
はい どちらともいえない いいえ
19. 現在、他の人の横顔や口元の感じに、関心がありますか?
はい どちらともいえない いいえ
20. 矯正治療をしていることを、恥ずかしいと思いませんか?
はい どちらともいえない いいえ
あなたが装着していた装置に○をつけて下さい
金製の装置 歯と同色の装置 舌側矯正 その他
21. 自分の身近に歯並びの悪い人がいたら矯正治療を勧めますか?
はい どちらともいえない いいえ
22. 将来自分の子供ができたとき、必要なら矯正治療を受けさせますか?
はい どちらともいえない いいえ
23. 矯正治療を受けて良かったと思いませんか?
はい どちらともいえない いいえ
24. 矯正治療を終了して、他人から歯並びがきれいと言われますか?
はい どちらともいえない いいえ
25. ご意見・ご要望があればご自由にお書きください

ご協力ありがとうございました。
このアンケートは、受付においてある回収箱に入れてください。

図1 アンケート用紙 (患者本人用)

緒言

矯正治療の目的は、審美的、機能的な改善に加え、不正咬合に起因する心理的障害の解消がある¹⁻⁴⁾。しかし、矯正治療を始めるにあたり、治療期間が長い、装置が気になる、治療費が高いなどが治療開始の障害となり、矯正治療を開始しても、患者の想像していた治療と実際の治療に相違が生じる場合もある⁵⁻⁸⁾。矯正治療を進める上で、患者と担当医の意思疎通は重要であり、矯正治療に対して患者や保護者が抱いている意識や要望などを知り、治療に反映することは患者への高い満足度の提供ならびに医療の向上にもつながると考えられる。

近年、矯正治療が広く認知され成人矯正が増加していることや、いわゆるデンタルIQの向上ならびに歯の審美性を追求するようになったことなどから、歯並びが心理学的に影響を及ぼすことが考えられ、矯正治療に対する心理学的検討¹⁻⁴⁾やアンケート調査による矯正治療の評価が行われている³⁻¹⁵⁾。

松本歯科大学病院矯正歯科の治療開始患者数をみると、1975年から1979年の5年間で254人であり、

1990年から1994年の5年間で401人と増加し、その後は横ばいである。1972年に松本歯科大学病院矯正歯科が設立されてから矯正治療患者の数に変化があったとともに、患者・保護者の認識も変わってきていることが予想される。

そこで、今回われわれは、近年の患者・保護者の意識を把握し、矯正治療に対する認識と問題点を調査するために、動的治療を終了した患者とその保護者にアンケート調査を行い、検討した。

調査対象および方法

2008年7月から2009年3月の9か月間、松本歯科大学病院矯正歯科で動的治療を終了し、保定調整もしくは保定後の資料収集のために来院した患者とその保護者に対し、アンケート調査を行った。対象患者は、第1期治療と第2期治療を行った者および第2期治療のみ行った者の両者を含んでいた。調査に先立ち、本調査は無記名による調査であること、本調査への協力はあくまでも任意であることを説明した。実施方法はアンケートによる質問紙法で、被験者もしくは同伴の保護者に直接アンケート用紙を手渡し、記入後受付に

| 歯科矯正治療に関するアンケート | |
|---------------------------------------|---|
| — 矯正治療が終了した患者様の保護者のかたへ — | |
| ご回答いただいた日 年 月 日 | |
| 1. 子供さんの性別は？ | 男 女 |
| 2. 子供さんの現在の年齢は？ | 歳 月 日 |
| 3. 子供さんの動的治療が終わって、どのくらい経ちましたか？ | 終わったばかり 1年未満 1年～2年未満 2年～4年未満 4年～10年未満 10年以上 その他 () |
| 4. 矯正治療に通った期間はどうか？ | 短かった どちらともいえない 長かった |
| 5. 歯並びを治すことに際してどう感じましたか？ | 自分の歯並びが悪かったので仕方がない 一つの貴重な経験だ 貴重な期間と費用を費やして、もったいない 何とも思わない その他 () |
| 6. いつごろ治療を受け始めれば良かったと思いますか？ | 小学校入学前 小学1,2年 小学3,4年 小学5,6年 中学生 高校生 大学生 それ以降：() 才 |
| 7. いつごろ治療が終われば良かったと思いますか？ | 小学校入学前 小学1,2年 小学3,4年 小学5,6年 中学生 高校生 大学生 それ以降：() 才 |
| 8. 途中で矯正治療をやめさせたいと思ったことがありましたか？ | あった どちらともいえない なかった やめさせたいと思った人は、その理由は何でしたか？ 該当する項目があれば、何項目でもいいですから○をつけて下さい。 ・学校を休ませたくなかった ・受験の時期になった ・あまりに長期間過ぎると思った ・子供がやめたいといった ・装置をつけさせるのが嫌になった ・もう治ったと思った ・全然治っていないと思った ・子供の性格が消極的になった ・ある程度以上治療する必要がないと思った ・子供が怒りっぽくなった ・子供の性格が暗くなった ・学校の成績が下がった ・その他 () |
| 9. 近くの歯医者さんで矯正治療を受けられると便利だと思いませんか？ | 思った やはり大学病院が良いと思った その他 () |
| 10. 装置を外した時の歯並びはどうか？ | 大満足 満足 どちらともいえない 不満 大不満 |
| 11. 子供さんの現在の歯並びに満足していますか？ | はい どちらともいえない いいえ |
| 12. 矯正治療を行って歯並びがよくなったと思いますか？ | はい どちらともいえない いいえ |
| 13. 矯正治療を行って口まの感じがよくなったと思いますか？ | はい どちらともいえない いいえ |
| 14. 横顔や口まの感じは気に入っていますか？ | はい どちらともいえない いいえ |
| 15. 歯並びが治ったことで、子供さんの性格や習慣が変わったと思いますか？ | はい どちらともいえない いいえ 該当する項目があれば、何項目でもいいですから○をつけて下さい。 ・矯正治療を受ける前に比べて積極的になった ・矯正治療を受ける前に比べて明るくなった ・矯正治療を受ける前に比べて自信をもつようになった ・矯正治療を受ける前に比べて人前に出るとき恥ずかしさがなくなった ・矯正治療を受ける前に比べてきちんと歯を磨くようになった |
| 16. 現在、他の人の歯並びが気になりますか？ | はい どちらともいえない いいえ |
| 17. 現在、他の人の横顔や口まの感じに、関心がありますか？ | はい どちらともいえない いいえ |
| 18. 自分の身近に歯並びの悪い人がいたら、矯正治療を勧めますか？ | はい どちらともいえない いいえ |
| 19. 矯正治療を受けて良かったと思いますか？ | はい どちらともいえない いいえ |
| 20. ご意見・ご要望があればご自由にお書きください | |

ご協力ありがとうございました。
このアンケートは、受付においてある回収箱に入れてください。

図2 アンケート用紙（保護者用）

設置したアンケート回収箱に投函してもらった。質問内容は性別、年齢および治療開始と期間の基本的事項と、矯正治療の動機、治療中の評価、治療後の評価ならびに他人の歯並びへの関心など20項目について行った(図1, 2)。その後、患者データは未成年(20歳未満)と成人(20歳以上)の2群に分けてそれぞれに対して集計、分析ならびに検討を行った。統計分析にはSPSS 17.0Jを使用し、 χ^2 独立性の検定を行った。

結 果

I. アンケートに回答した患者の年齢、性別について

回答した患者数は121名(男性41名,女性80名)で、男女比はほぼ1:2であった(図3)。年齢階級別にみると「10歳代」59.5%(72名)、「20歳代」27.3%(33名)、「30歳代」12.4%(15名)、「40歳代」0.8%(1名)で、10歳代がもっとも多かったものの、20歳以降の成人患者の割合は全体の40.5%を示した(図4)。保護者でアンケートに回答した人数は48名であった。

II. 通院開始時期、治療終了時期の患者の希望と実際の治療期間

治療期間では「長かった」と回答した患者は66.1%(80名)、「どちらともいえない」25.6%(31名)、「短か

った」5.0%(6名)、「無回答」3.3%(4名)であった。保護者の回答をみると、「長かった」と回答した保護者は68.8%(33名)で、「どちらともいえない」16.7%(8名)、「短かった」8.3%(4名)、「無回答」6.2%(3名)であり(図5)、両者ともに60%以上が長かったと回答していた。

通院を開始した時期は「小学校3～4年生」が24.8%(30名)と最も多く、「小学校5～6年生」14.9%(18名)、「小学校1～2年生」4.1%(5名)、「小学校入学前」が2.5%(3名)で、小学生全体では43.8%となり、4割以上が小学生から通院を開始していた。また「中学生」21.5%(26名)、「高校生」8.3%(10名)、「大学生」5.0%(6名)、「大学生以降」12.4%(15名)、「無回答」6.6%(8名)となり(図6)、開始時期のばらつきは大きかったが、中学生までの開始が全体の67.8%を占めた。

一方、「いつごろ治療を開始すればよかったですか？」という質問に対して、「小学校3～4年」が25.6%(31名)と最も多く、「小学校5～6年」24.0%(29名)、「中学生」15.7%(19名)、「小学校1～2年生」9.9%(12名)、「小学校入学前」が5.0%(6名)、「高校生」5.0%(6名)、「大学生以降」3.3%(4名)、「無回答」11.6%(14名)の順であった。小学3～6年生の間に治療を開始したほうがよかったですと回答した患者が

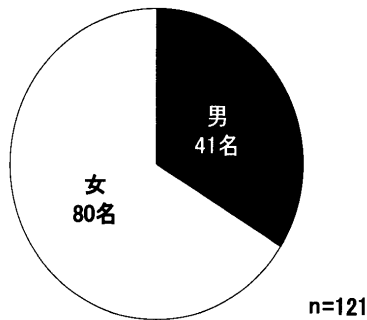


図3 回答した患者の男女比

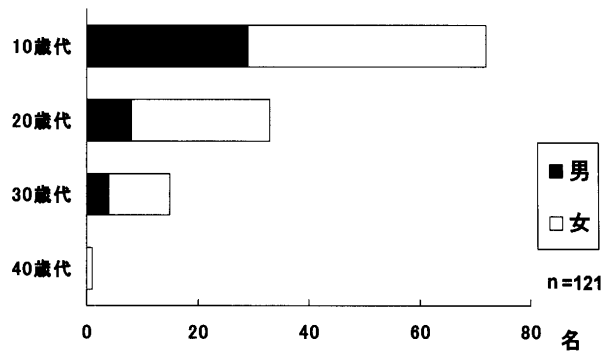


図4 患者の年齢階級

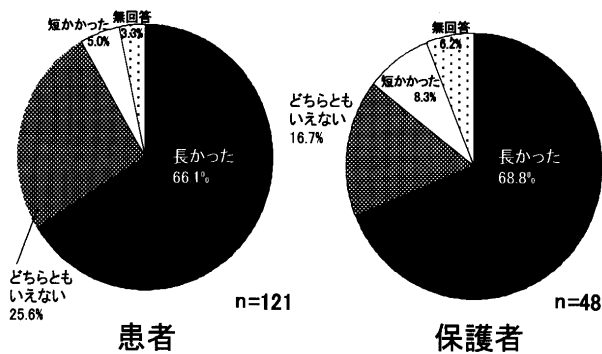


図5 通院期間

49.4%と全体のほぼ半数を占めていた。小学生までの間に治療を開始したいと回答した患者は全体の64.5%となり、実際に通院を開始した時期よりも早めの開始を希望する傾向が認められた。

動的治療を終了した時期は「高校生」が26.4% (32名)と最も多く、「大学生以降」23.1% (28名)、「中学生」21.5% (26名)、「大学生」16.5% (20名)と高い割合を示した。その他は「小学校1~2年生」0.8% (1名)、「小学校5~6年生」0.8% (1名)、「無回答」10.7% (13名)であった。一方、「いつごろ治療が終了すればよかったか」という質問に対しては「中学生」が31.4% (38名)と最も多く、「高校生」の29.8% (36名)も高い割合を示した。その他は「小学校5~6年生」9.1% (11名)、「大学生」7.4% (9名)、「大学生以降」6.6% (8名)、「小学校1~2年生」0.8% (1名)、「小学校3~4年生」0.8% (1名)、「無回答」14.0% (17名)の順であり(図7)、実際の終了時期よりも早い時期を希望しており、保護者でも同様な傾向がみられた。

III. 矯正治療の意思

歯並びを治すことに関しては「自分の歯並びが悪かったので仕方がない」と回答した患者が51.2% (62名: 成人49.0% 24名, 未成年52.8% 38名)で高い割合を示し、「一つの貴重な経験」30.6% (37名: 成人44.9% 22名, 未成年20.8% 15名)、「わからない」5.8% (7名:

成人0% 0名, 未成年9.7% 7名)、「楽しい経験だ」3.3% (4名: 成人0% 0名, 未成年5.6% 4名)、「何とも思わない」3.3% (4名: 成人2.0% 1名, 未成年4.2% 3名)、「その他」1.7% (2名: 成人2.0% 1名, 未成年1.4% 1名)、「貴重な期間と費用を費やして腹立たしい」0.8% (1名: 成人0% 0名, 未成年1.4% 1名)であり、「無回答」は3.3% (4名: 成人2.0% 1名, 未成年4.2% 3名)であった。保護者では「子供の歯並びが悪かったので仕方がない」が62.5% (30名)で高い割合を示し、「一つの貴重な経験」10.4% (5名)、「何とも思わない」4.2% (2名)、その他 12.5% (6名)、無回答 10.4% (5名)であった(図8)。

矯正治療中に治療をやめたいと回答した患者は全体の28.9% (35名: 成人36.7% 18名, 未成年23.6% 17名)で、「どちらともいえない」19.0% (23名: 成人6.1% 3名, 未成年27.8% 20名)、「やめたいと思わなかった」49.6% (60名: 成人57.1% 28名, 未成年44.4% 32名)、「無回答」2.5% (3名: 成人0% 0名, 未成年4.2% 3名)であり、「どちらともいえない」が未成年に多く、成人ではやめたいと思わなかった人が57.1%いたが、やめたいと思った人も36.7%で未成年よりも多かった。また、患者と保護者の間に有意差が認められ ($p < 0.001$) 両者の認識に違いがみられた。成人と未成年との間においても有意差が認められた ($p < 0.01$) (図9)。やめたいと思った理由は「装置の不快感」27名と最も多く、次いで「治療期間の長期化」17名、「動的治療時の疼痛」8名が原因であり、「気分が落ち着かないので嫌だった」8名、「受験の時期になった」2名、「もう治ったと思った」2名、「治療する必要がないと思った」1名、「その他」5名であった。(図10)。やめたいと回答した患者と使用した装置(金属の装置, 歯と同色の装置, 舌側矯正)との間に統計学的な有意差は認めなかった。保護者の回答についてみると、「矯正治療をやめさせたいと思ったことがあった」8.3% (4名)、「どちらともいえない」14.6% (7名)、「なかった」75.0% (36名)、「無回答」2.1% (1名)であり(図9)、やめさせたいと思った理由は「学校を休ませたくなかった」2名、「通

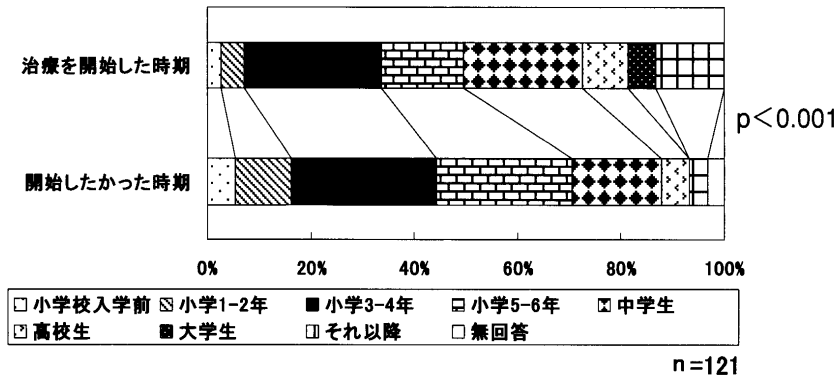


図6 通院開始時期

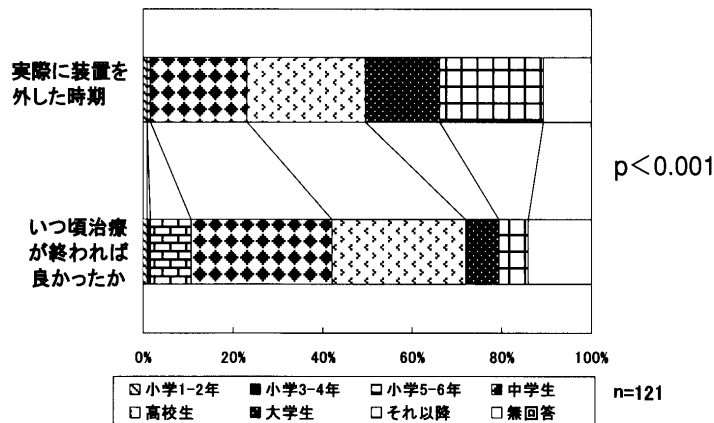


図7 装置を外した時期と希望時期

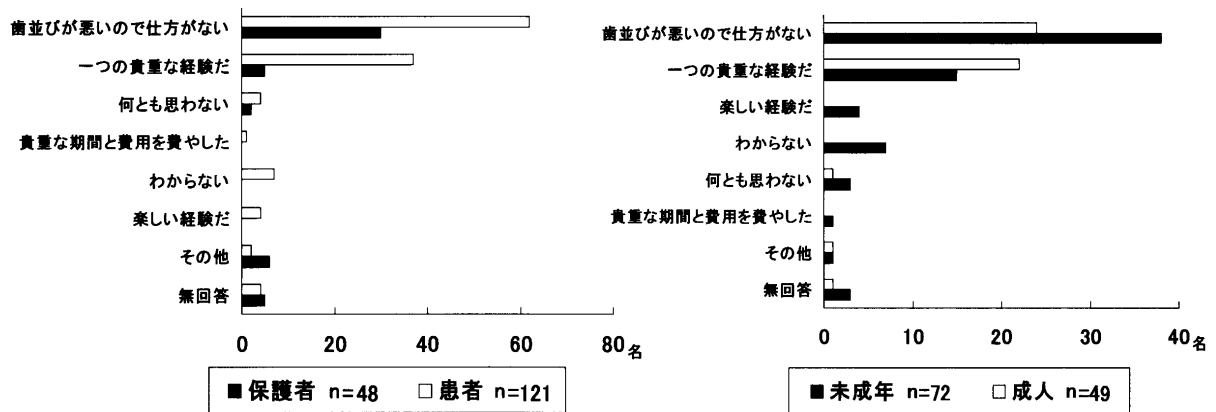


図8 歯並びを治すことに関してどう思いましたか？

院距離が長い」1名、「子供がやめたいといった」1名、「本人のやる気がない」1名、「装具が取れていた」1名で、患者よりも途中でやめたいと思った人の割合は低かった(図11)。

「矯正治療をしていることが恥ずかしい」と回答した患者は8.3% (10名: 成人12.2% 6名, 未成年5.6% 4名) となり、「どちらともいえない」14.0% (17名: 成人8.2% 4名, 未成年18.1% 13名), 「矯正治療を恥ずかしいと思わなかった」は68.6% (83名: 成人73.5% 36名, 未成年65.3% 47名), 「無回答」9.1% (11

名: 成人6.1% 3名, 未成年11.1% 8名)であった(図12-1)。成人, 未成年ともに矯正治療を恥ずかしいと思わなかった患者が「どちらともいえない」「矯正治療を恥ずかしいと思わなかった」に対して有意に多く ($p < 0.001$), 未成年と成人とのあいだに有意差は認められなかった。矯正治療をしていることが恥ずかしい」と回答した患者の装置別では, 金属の装置で5.5% (6名: 成人8.7% 4名, 未成年3.2% 2名), 歯と同色の装置では3.7% (4名: 成人4.3% 2名, 未成年3.2% 2名), 舌側装置では0% 0名で, 成人と未成年ともに

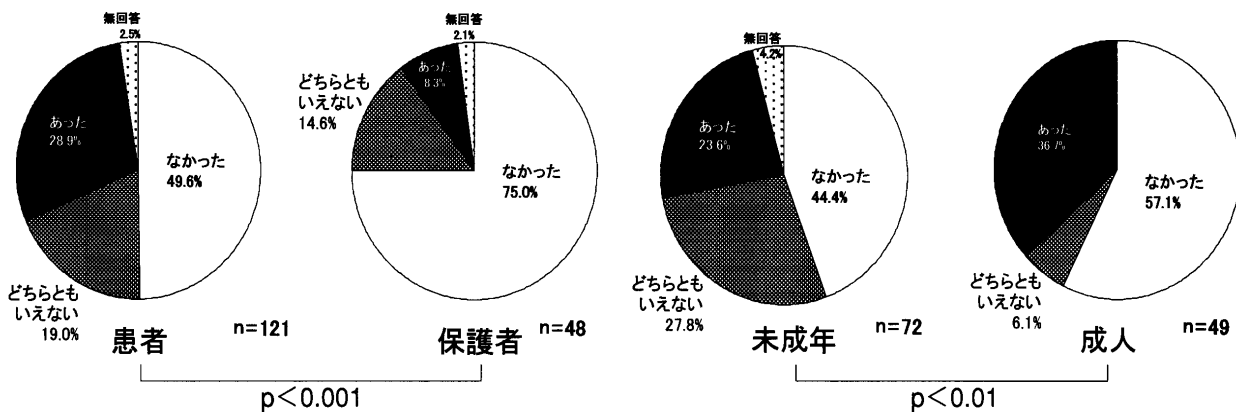


図9 途中で治療をやめたいと思ったか

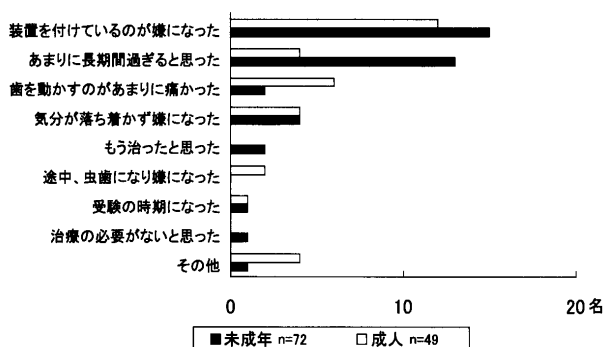


図10 やめたいと思った人は、その理由は何でしたか？

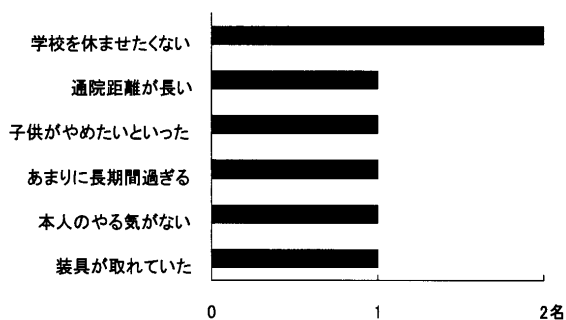


図11 やめさせたいと思った人は、その理由は何でしたか？（保護者に質問）

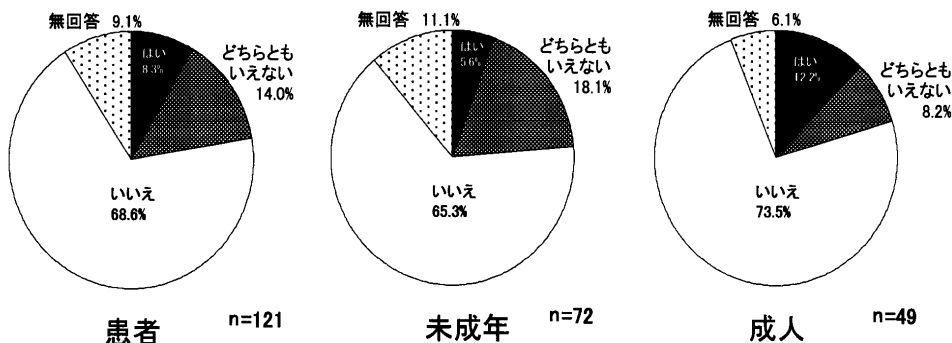


図12-1 矯正治療をしていることを恥ずかしいと思いませんか？

金属の装置と、歯と同色の装置ともに低い割合を示し（図12-2）審美的な外観から治療をやめたいと思っている人は低い割合を示した。

IV. 患者による矯正治療の評価

装置を外した時の歯並びに「大満足」と回答した患者は29.8%（36名：成人38.8% 19名，未成年23.6% 17名）であり、「満足」58.7%（71名：成人57.1% 28名，未成年59.7% 43名），「どちらともいえない」3.3%（4名：成人0% 0名，未成年5.6% 4名），「不満」0%，「大不満」0%，「無回答」8.3%（10名：成人4.1% 2名，未成年11.1% 8名）で，未成年，成人ともに満足と回答する患者が多かった。保護者の回答をみると，「大満

足」と回答した保護者は14.6%（7名）であり，「満足」75.0%（36名），「どちらともいえない」4.2%（2名），「不満」0%，「大不満」0%，「無回答」6.2%（3名）となり（図13），患者・保護者とも満足が有意（ $p < 0.001$ ）に多かった。

「現在の歯並びに満足」と回答した患者は78.5%（95名：成人85.7% 42名，未成年73.6% 53名）で，「どちらともいえない」9.9%（12名：成人8.2% 4名，未成年11.1% 8名），「いいえ」1.7%（2名：成人0% 0名，未成年2.8% 2名），「無回答」9.9%（12名：成人6.1% 3名，未成年12.5% 9名）で，未成年，成人ともに満足と回答する患者が多かった。保護者の回答をみると，「満足」と回答した保護者は79.2%（38名）で，「ど

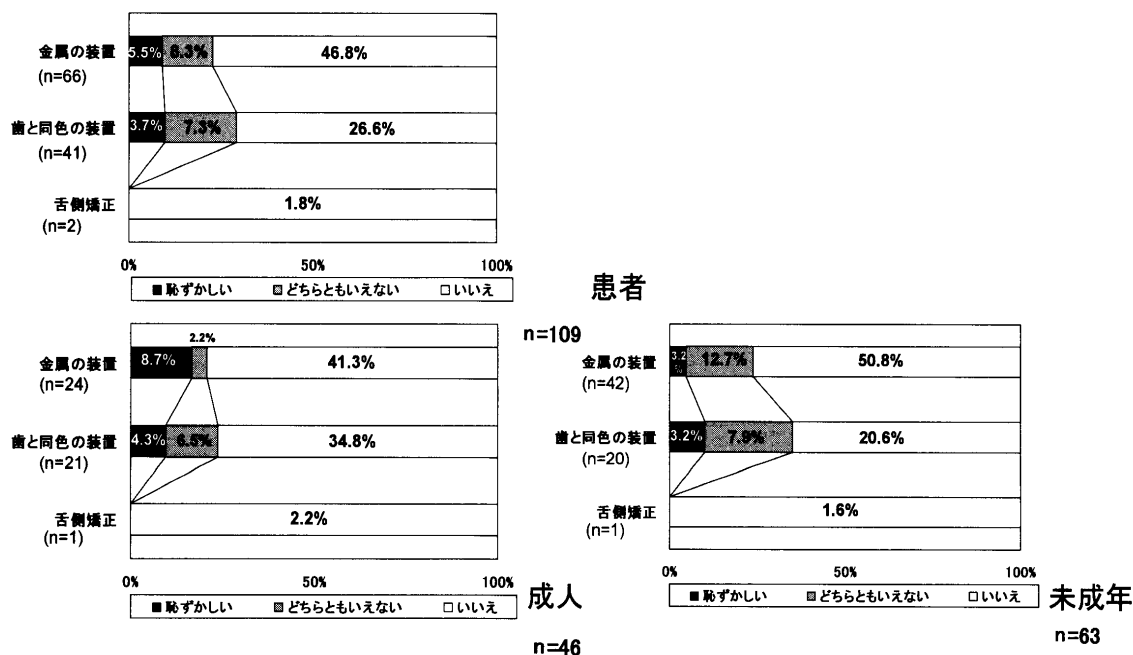


図 12-2 矯正治療をしていることを恥ずかしいと思いましたか？ (使用装置)

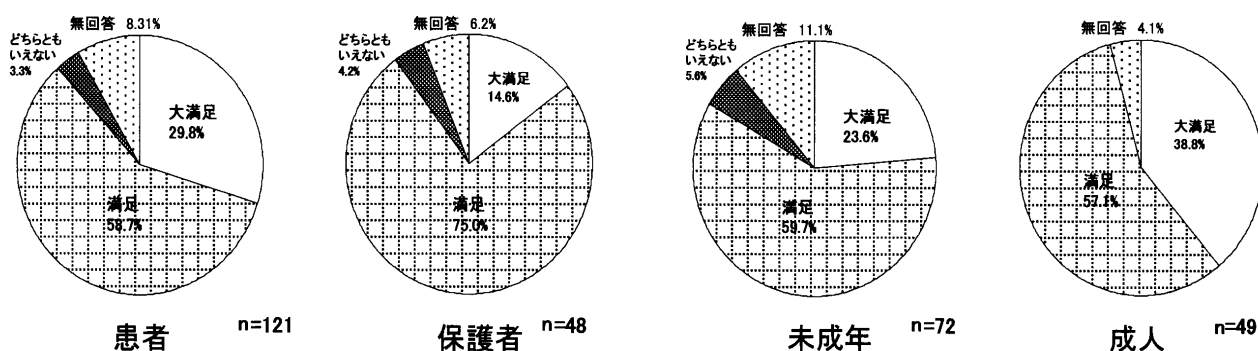


図 13 装置を外した時の歯並びはどうでしたか？

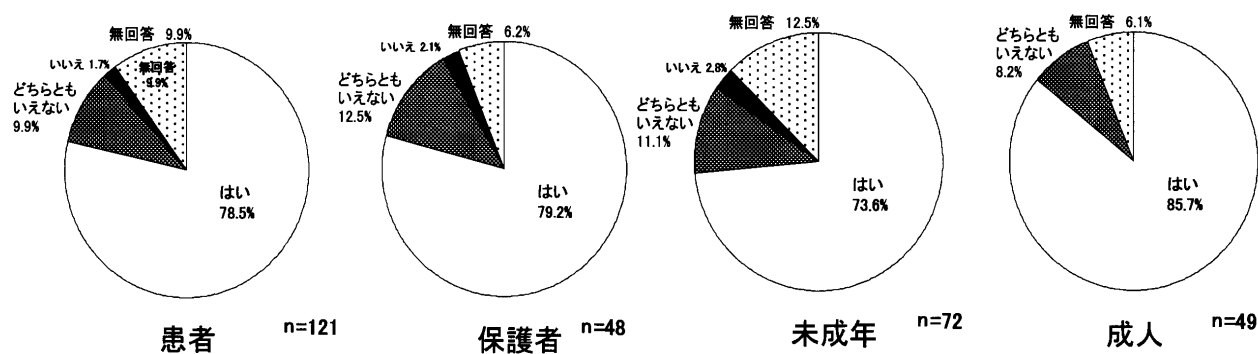


図 14 現在の歯並びに満足していますか？

「どちらともいえない」12.5% (6名), 「いいえ」2.1% (1名), 「無回答」6.2% (3名) を示し (図 14), 装置を外した時の歯並びに比べるとやや評価は下がるものの未成年, 成人の患者, 保護者ともに満足が有意 ($p < 0.001$) に多かった。

「矯正治療を行って歯並びがよくなった」と回答した患者は 90.1% (109名: 人 93.9% 46名, 未成年

87.5% 63名) で, 「どちらともいえない」0.8% (1名: 人 0% 0名, 未成年 1.4% 1名), 「いいえ」0.8% (1名: 成人 2.0% 1名, 未成年 0% 0名), 「無回答」8.3% (10名: 成人 4.1% 2名, 未成年 11.1% 8名) で, 保護者では「矯正治療を行って歯並びがよくなった」と回答した保護者は 91.7% (44名) で, 「どちらともいえない」2.1% (1名), 「いいえ」2.1% (1名), 「無回答」4.2% (2

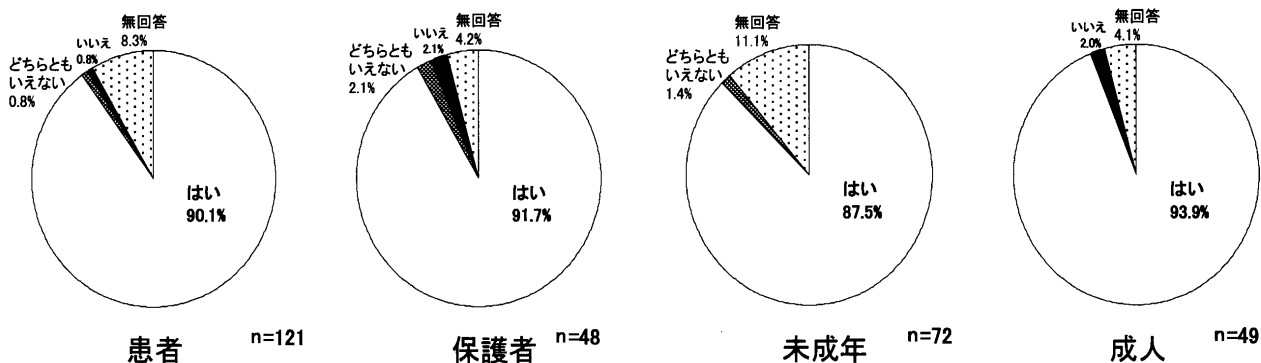


図 15 矯正治療を行って歯並びがよくなったと思いますか？

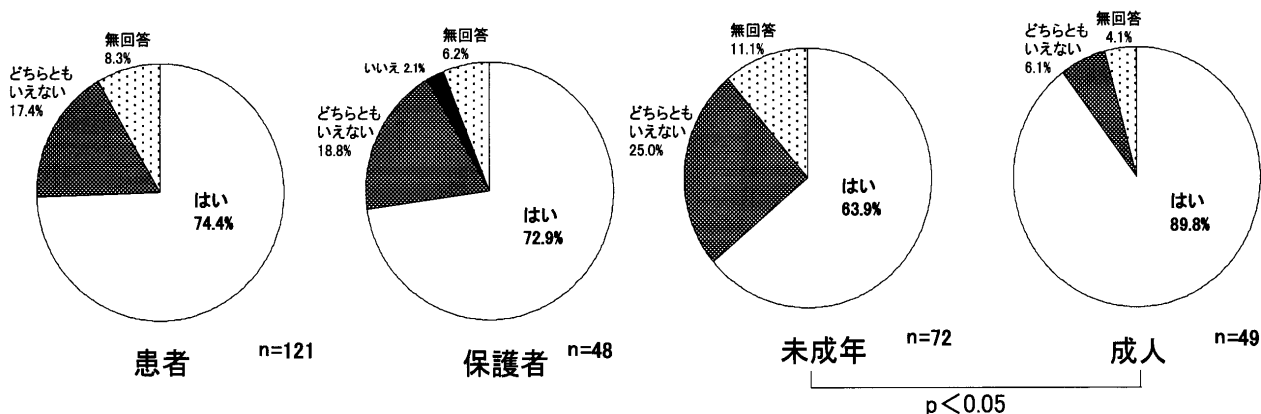


図 16 矯正治療を行って口元の感じがよくなったと思いますか？

名)を示し、未成年、成人の患者、保護者ともに90%以上の方が歯並びがよくなったと感じていた(図15)。

「矯正治療を行って口元の感じがよくなった」と回答した患者は74.4%(90名:成人89.8%44名,未成年63.9%46名)で、「どちらともいえない」17.4%(21名:成人6.1%3名,未成年25.0%18名),「いいえ」0%,「無回答」8.3%(10名:成人4.1%2名,未成年11.1%8名)であった。保護者では「矯正治療を行って口元の感じがよくなった」と回答した保護者は72.9%(35名)で、「どちらともいえない」18.8%(9名),「いいえ」2.1%(1名),「無回答」6.2%(3名)(図16)を示し、未成年、成人の患者、保護者ともに70%以上の方が口元の改善を感じていた。

「横顔や口元の感じは気に入っている」と回答した患者は59.5%(72名:成人69.4%34名,未成年52.8%38名),「どちらともいえない」27.3%(33名:成人20.4%10名,未成年31.9%23名),「いいえ」4.1%(5名:成人4.1%2名,未成年4.2%3名),「無回答」9.1%(11名:成人6.1%3名,未成年11.1%8名)であった。保護者では「横顔や口元の感じは気に入っている」と回答した保護者は62.5%(30名)で、「どちらともいえない」27.1%(13名),「いいえ」4.2%(2名),「無回答」6.2%(3名)であった(図17)。これ

は「矯正治療によって口元の感じはよくなったが気に入っているか」との質問よりは、満足している割合は減少していた。

「歯並びが治ったことで自分の性格や習慣が変わったと思いますか」という質問に対し、「はい」と回答した患者は32.2%(39名:成人46.9%23名,未成年22.2%16名),「どちらともいえない」40.5%(49名:成人38.8%19名,未成年41.7%30名),「いいえ」18.2%(22名:成人8.2%4名,未成年25.0%18名),「無回答」9.1%(11名:成人6.1%3名,未成年11.1%8名)であり(図18),成人と未成年とのあいだに有意差が認められた($p < 0.05$)。成人は矯正治療後に自分の性格や習慣に変化が生じたと考えており、心理面でのプラス効果が、約半数に認められた。歯並びが治ったことで変わったことについては、「歯をよく磨くようになった」と回答した患者が47.9%(58名:成人53.1%26名,未成年44.4%32名)と最も多く、次いで「人前に出るとき恥ずかしさがなくなった」24.8%(30名:成人36.7%18名,未成年16.7%12名),「治療前に比べて自信をもつようになった」19.0%(23名:成人32.7%16名,未成年9.7%7名)の順に多く、「性格が明るくなった」7.4%(9名:成人10.2%5名,未成年5.6%4名),「積極的になった」3.3%(4名:成人6.1%3名,未成年1.4%1名)など心理面での満足

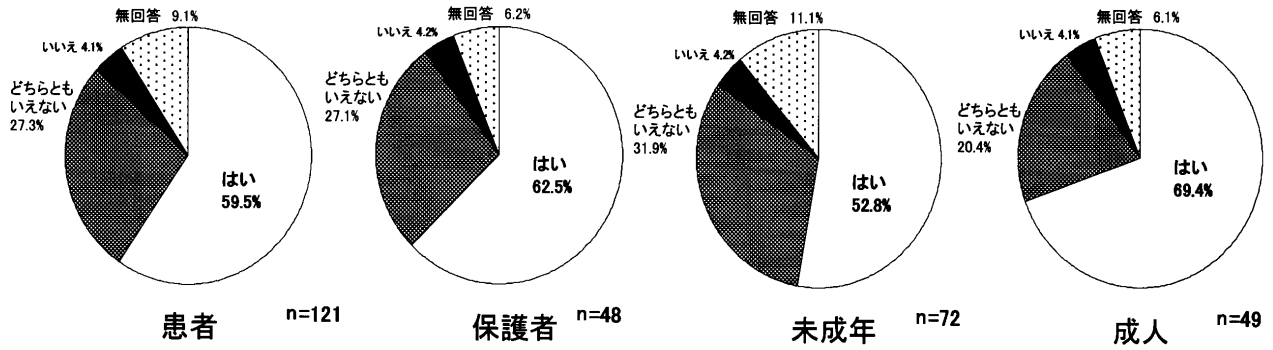


図 17 横顔や口元の感じは気に入っていますか？

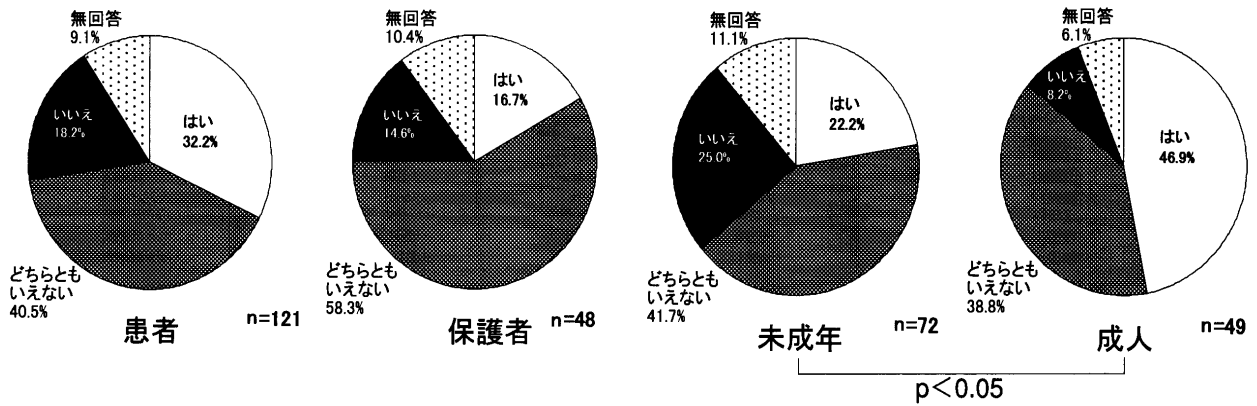


図 18 歯並びが治ったことで、自分の性格や習慣が変わったと思いますか？

が得られていた (図 19)。保護者では、「歯並びが治ったことで子供の性格や習慣が変わったと思う」が 16.7% (8名) で、「どちらともいえない」58.3% (28名)、「いいえ」14.6% (7名)、「無回答」10.4% (5名)であった (図 18)。また、歯並びが治ったことで変わったことについて保護者では、「歯をよく磨くようになった」が 25.0% (12名)、次いで「人前に出るとき恥ずかしさがなくなった」6.2% (3名)、「治療前に比べて自信をもつようになった」4.2% (2名)の順に多く、「性格が明るくなった」2.1% (1名)であった (図 19)。

「矯正治療を受けてよかった」と回答する患者は 90.9% (110名:成人 95.9% 47名, 未成年 87.5% 63名)であり、「どちらともいえない」は 0.8% (1名:成人 0% 0名, 未成年 1.4% 1名)、「いいえ」0% (0名)、「無回答」8.3% (10名:人 4.1% 2名, 未成年 11.1% 8名)であった。保護者では「矯正治療を受けてよかった」と回答する保護者は 89.6% (43名)であり、「どちらともいえない」6.2% (3名)、「いいえ」0% (0名)、「無回答」4.2% (2名)であり、未成年、成人の患者と保護者ともに矯正治療を受けてよかったと回答する人が有意 ($p < 0.001$) に多かった (図 20)。

V. 治療後、他人の歯並びへの関心と矯正治療の勧誘について

「他人の歯並びが気になる」と回答した患者は

42.1% (51名:成人 55.1% 27名, 未成年 33.3% 24名)で、「どちらともいえない」22.3% (27名:成人 14.3% 7名, 未成年 27.8% 20名)、「いいえ」27.3% (33名:成人 26.5% 13名, 未成年 27.8% 20名)、「無回答」8.3% (10名:成人 4.1% 2名, 未成年 11.1% 8名)であった。保護者では「他人の歯並びが気になる」と回答した保護者は 41.7% (20名)で、「どちらともいえない」25.0% (12名)、「いいえ」27.1% (13名)、「無回答」6.2% (3名)であり (図 21)、患者、保護者で 40%以上の方が他人の歯並びが気になると回答した。

「他人の横顔や口元の感じに関心がある」と回答した患者は 28.1% (34名:成人 40.8% 20名, 未成年 19.4% 14名)で成人の割合が多い傾向を増し、「どちらともいえない」30.6% (37名:成人 28.6% 14名, 未成年 31.9% 23名)、「いいえ」33.1% (40名:成人 26.5% 13名, 未成年 37.5% 27名)、「無回答」8.3% (10名:成人 4.1% 2名, 未成年 11.1% 8名)であった。保護者では「他人の横顔や口元の感じに関心がある」と回答した保護者は 37.5% (18名)を示し、「どちらともいえない」22.9% (11名)、「いいえ」35.4% (17名)、「無回答」4.2% (2名)であった (図 22)。

「自分の身近に歯並びの悪い人がいたら矯正治療を勧める」と回答した患者は 37.2% (45名:成人 36.7% 18名, 未成年 37.5% 27名)で、「どちらともいえない」45.5% (55名:成人 53.1% 26名, 未成年

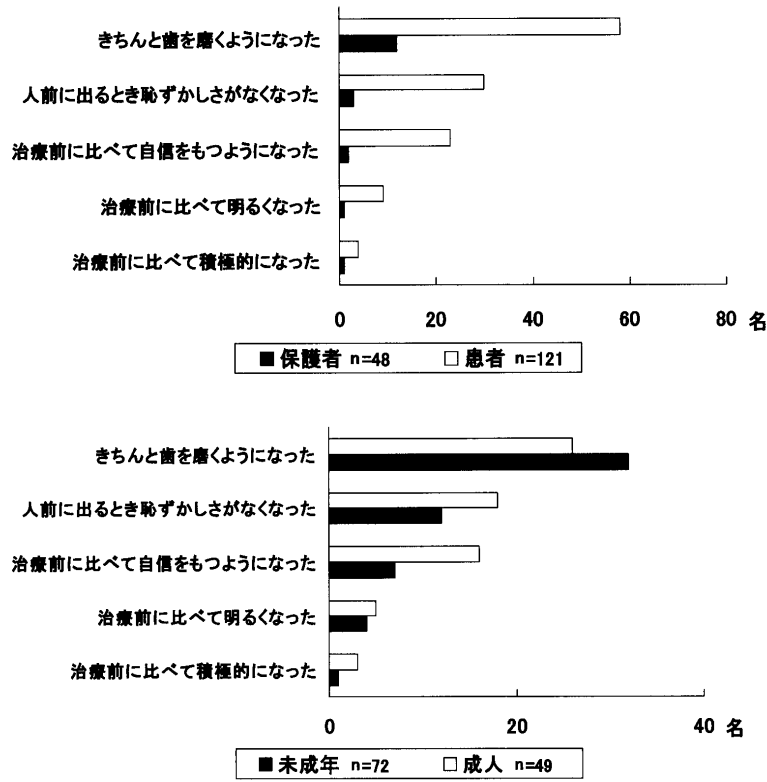


図 19 歯並びが治ったことで、変わったこと

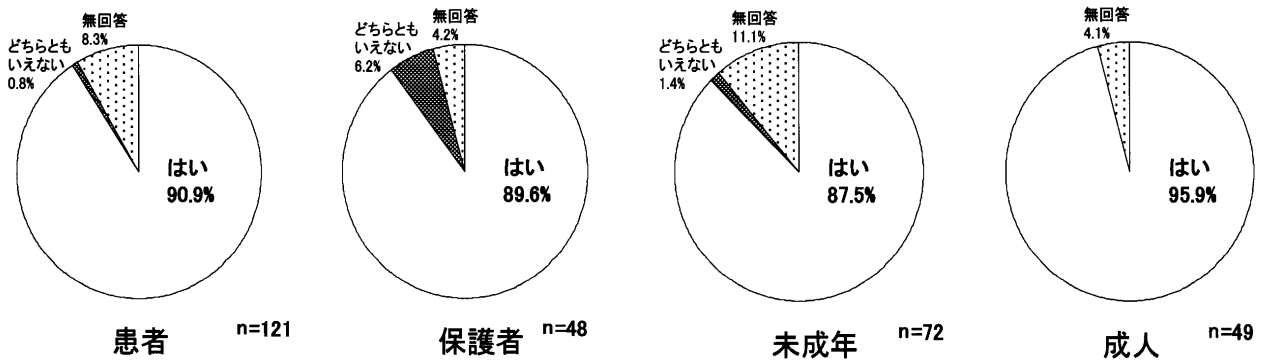


図 20 矯正治療を受けてよかったですか？

40.3% 29名), 「いいえ」 8.3% (10名: 成人 6.1% 3名, 未成年 9.7% 7名), 「無回答」 9.1% (11名: 成人 4.1% 2名, 未成年 12.5% 9名)であった。保護者では「自分の身近に歯並びの悪い人がいたら矯正治療を勧める」と回答した保護者は 33.3% (16名)で、「どちらともいえない」50.0% (24名), 「いいえ」12.5% (6名), 「無回答」4.2% (2名)であり (図 23), 患者, 保護者ともに「矯正治療を勧める」と回答した人が 30%以上を示した。

「将来自分の子供に矯正治療が必要になったとき, 治療を受けさせる」と回答した患者が 77.7% (94名: 成人 83.7% 41名, 未成年 73.6% 53名), 「どちらともいえない」14.0% (17名: 成人 12.2% 6名, 未成年 15.3% 11名), 「いいえ」0% (0名), 「無回答」8.3% (10

名: 成人 4.1% 2名, 未成年 11.1% 8名) (図 24) で, 将来矯正治療を受けさせると回答した患者が, 未成年, 成人ともに「どちらともいえない」「いいえ」に対して有意に多かった ($p < 0.001$)。

「矯正治療を終了して, 他人から歯並びがきれいといわれる」と回答した患者は 54.5% (66名: 成人 73.5% 36名, 未成年 41.7% 30名), 「どちらともいえない」24.8% (30名: 成人 14.3% 7名, 未成年 31.9% 23名), 「いいえ」10.7% (13名: 成人 6.1% 3名, 未成年 13.9% 10名), 「無回答」9.9% (12名: 成人 6.1% 3名, 未成年 12.5% 9名)であり (図 25), 成人では未成年に比べ, 他人から歯並びがきれいといわれる割合が有意に多かった ($p < 0.01$)。

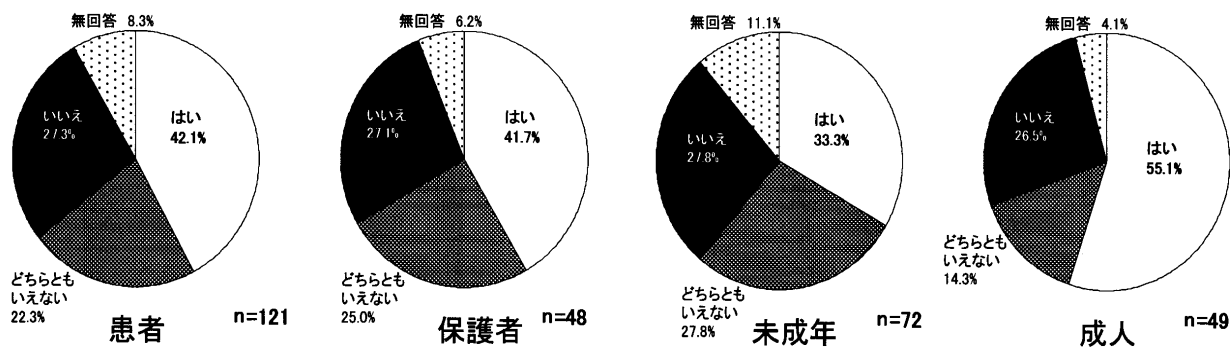


図 21 現在、他の人の歯並びが気になりますか？

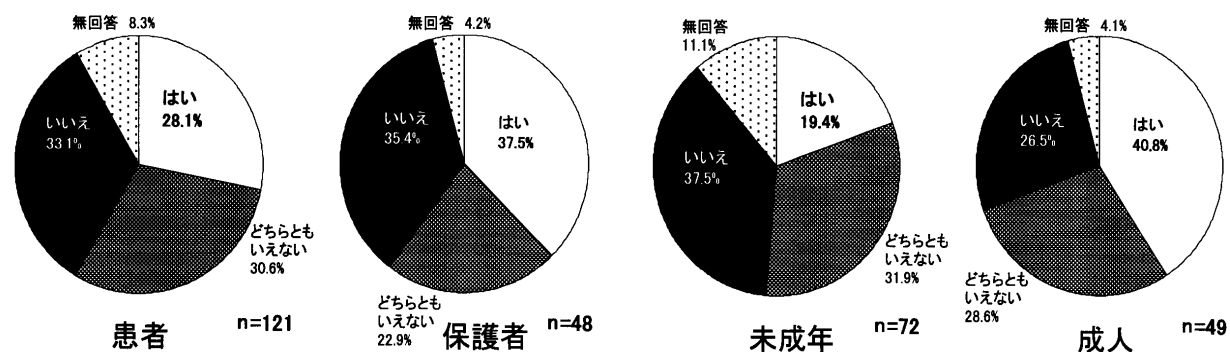


図 22 現在、他の人の横顔や口元の感じに関心がありますか？

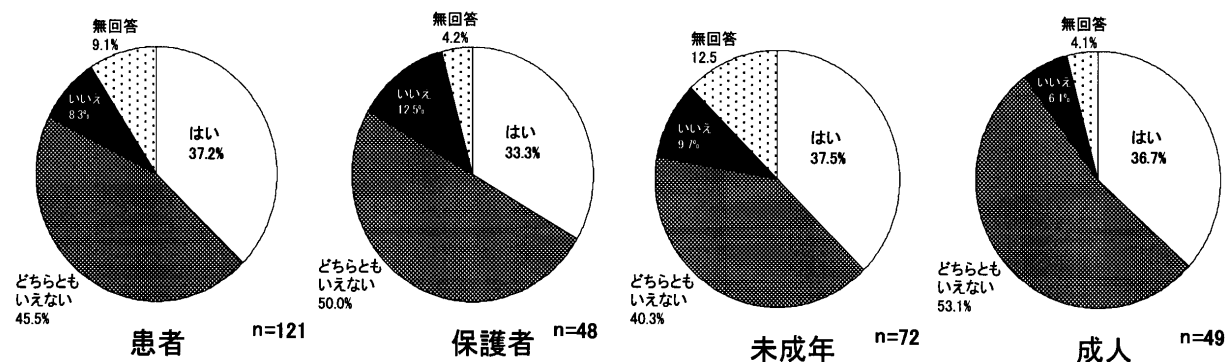


図 23 自分の身近に歯並びの悪い人がいたら矯正治療を勧めますか？

考 察

I. 通院開始時期、治療終了時期の患者の希望と実際と治療期間

治療開始の時期について、遠藤ら¹⁾は心理学的観点から青年期以前であることが望ましいとしている。また、高口ら⁶⁾は治療期間の短縮と治療後の安定を考えた場合、矯正治療時期は必ずしも早いほどよいものではなく、各症例に応じた治療の最適時期があるとしている。今回の結果では、高校生までに終了を希望しているものが有意に多く、矯正治療は早く始めて早めの時期に終了し、治療期間は短くを望んでいたことから、患者側の心理学的観点からは早期の終了を希望していた。

治療終了時期については、最終治療を高校生入学頃

までに開始することで対応可能となる。一方、治療期間については、来院患者の過半数を占める小児患者で第1期治療を行った場合には、第2期治療で第二大臼歯の咬合を完成させた状態で終了としているために通院期間が長期となる。したがって、来院時を治療開始とするのではなく、各症例に応じて最適の治療開始時期を設定し、動的治療期間を短縮することが必要である。また、治療前の説明時におよその治療期間と終了時期を伝えることも、患者との信頼関係を獲得する上で重要と考えられる。

II. 矯正治療の意思

矯正治療の動機は「噛みにくい」などの機能的要素よりも「外見」などの審美的要素が強い³⁾ことが報告されている。また、黒江らは¹²⁾18歳以上では「歯並び」

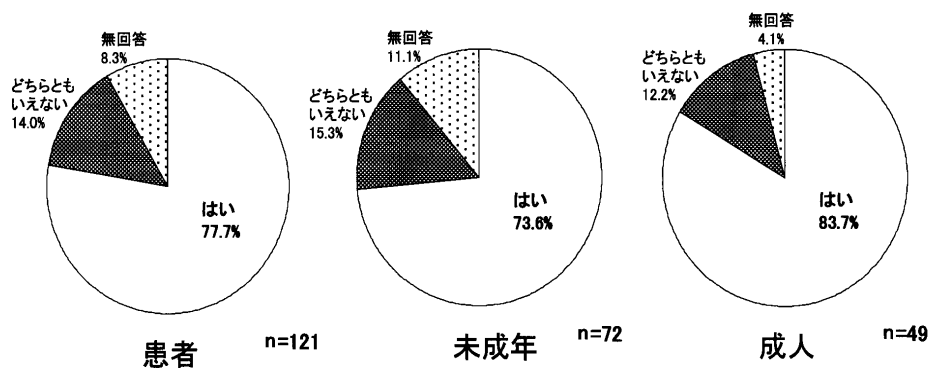


図 24 将来自分の子供ができたとき必要なら矯正治療を受けさせますか？

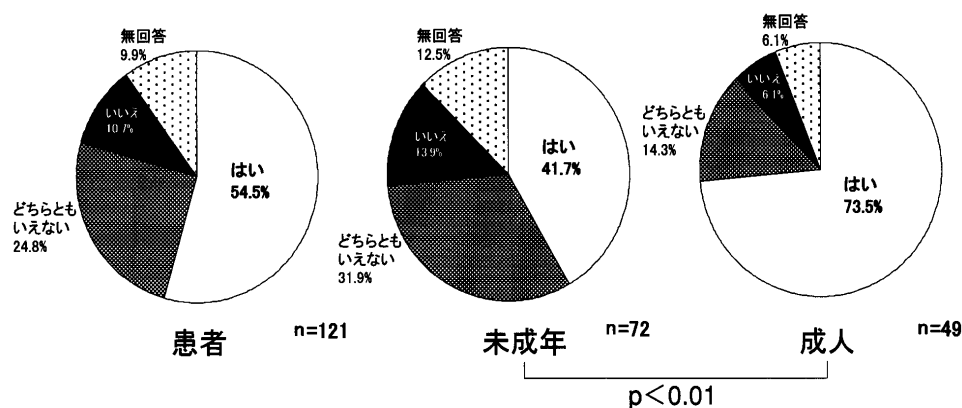


図 25 矯正治療を終了して、他人から歯並びがきれいといわれますか？

や「顔貌」の審美的要素が多いが、18歳未満では「歯並び」「学校の歯科検診」が多いと述べている。本研究では歯並びを治すことに関しては「自分の歯並びが悪かったので仕方ない」と感じる患者は半数を占め、特に未成年では大きな割合を示した。また、「一つの貴重な経験だ」と感じた成人は44%、未成年は20%であり、自分の歯並びを改善するために、矯正治療を比較的に受け入れた結果を示したと推察される。

「治療中にやめたい」と感じた患者は本研究では全体の約1/3であり、成人と未成年では有意差を示し、成人では未成年よりも「やめたいと思わなかった人」も「やめたいと思った人」も多かった。その理由として、未成年、成人ともに「装置を付けているのが嫌になった」が最も多かったが、未成年では成人に比べ「治療期間の長期化」が多く、成人では未成年に比べ「歯の移動時の痛み」が多かった。また、保護者では「学校を休ませたくない」という割合が多かった。伊東ら¹⁶⁾によると広島大学病院矯正歯科における治療中止患者は7.6%で、その45%が治療に「嫌気をさしたことがある」と答えていた。矯正治療は長期に及び、疼痛や不快を感じることから、治療途中に意欲が失われることがある。本研究の結果から、これらを防ぐには術前の治療に対する正確な情報を提供し、治療中も保護者・患者の両者がコミュニケーションをとり、治療に対す

る意思を維持させることが必要であることが示唆された。

矯正装置装着による心理的影響については、石川ら⁴⁾が「矯正治療を恥ずかしい」と答えた患者の割合を金属の装置使用者では男子40.0%、女子56.9%、歯と同色の装置使用者では男子26.8%、女子42.8%と報告している。本研究では、「矯正治療を恥ずかしい」と答えた患者の割合は未成年、成人ともに1割にも満たず、7割の患者が恥ずかしくないという結果で、石川らの研究と比較すると恥ずかしいと感じる人は1/2であった。また、本研究では「矯正治療を恥ずかしい」と回答した中で、未成年、成人ともに金属の装置と歯と同色の装置による違いは見られなかった。このように矯正治療を恥ずかしいと感じる人の割合が少なかったことと、装置の種類による差がみられなかったのは、地域性および矯正治療が普及して社会に受け入れられていることの表れではないかと考えられる。

III. 患者による矯正治療の評価

矯正治療効果は全体の90–95%に認められ、「口元に自信が持てるようになる」、「食べやすくなる」、「虫歯や歯周病になりにくくなる」などの審美的機能的要求と同時に「コンプレックスの解消」も多く、患者の心理学的な側面にも配慮しながら矯正治療を進める必要性

が報告されている^{6,12)}。本研究でも治療後の歯並びに対する満足度は、患者78.5%、保護者79.2%とともに高い割合で得られ、治療後の口元および横顔の感じについては、患者では未成年に比べ成人で有意に高い割合で満足が得られた。これは、成人では歯並びのみならず、側貌などの審美的な要因についても気にしていることによるものと推察された。

性格や習慣については、自分の性格や習慣に変化が生じたと考えていたことについて、未成年に比べ成人で有意に高い回答が得られた。内容については成人では「治療前に比べて自信を持てるようになった」、「人前になると恥ずかしさがなくなった」の項目で高い割合を示したことから、成人において矯正治療によって性格に変化が生じたと考え、また、習慣の改善がみられた。一方、未成年では、「きちんと歯を磨くようになった」が高い割合を示し、矯正治療による習慣の改善する傾向がみられた。

これらのことから、治療前のコンサルテーションで、成人では歯並びのみならず側貌などの軟組織の変化、さらには習慣の改善などが得られることを説明し、啓発することが矯正治療を市民に広く受け入れられるようになるために重要であると考えられた。

IV. 治療後、他人の歯並びへの関心と矯正治療の勧誘について

矯正治療後、他人の歯並び、口元や横顔に関心があるのは、患者・保護者ともに50%以下であったが、その中でも患者では未成年に比べ成人は歯並び、口元や横顔に関心がある人が高い傾向を示したことから、成人では矯正治療後の歯並び、口元および横顔に高い満足が得られたのと同様に、他人の歯並び、口元および横顔にも関心を示していることが示唆された。

将来自分の子供に矯正治療が必要になった時に治療を受けさせると考えている患者は、成人、未成年ともに70%以上と有意に多く、治療の必要性や効果が評価された。われわれ矯正歯科医は、人と会話をしている時に相手の歯並びを常に気にするが、矯正治療を行った患者では治療前の自分の歯並びにコンプレックスをもっているものの他人への関心は低く、不正咬合や矯正治療の概要について積極的に情報を社会に提供する必要性のあることが示唆された。

結 論

1. 矯正治療終了時期と期間は、高校生までに終了を希望し、短い治療期間を望んでいる者が多かった。
2. 矯正治療を受けることに関しては、「自分の歯並びが悪かったので仕方ない」と感じる者が半数

を占めていた。治療中の評価では、「途中でやめたい」と感じた患者は全体の約1/3であり、その理由として「装置の不快感」に加え、未成年では「治療の長期化」、成人では「歯の移動時の痛み」が多かった。また、装置の心理的影響では、未成年、成人ともに「矯正治療を恥ずかしい」と感じた人は10%以下と低かった。

3. 治療後の評価では、患者・保護者ともに歯並びに対する満足度が高く、成人では口元の感じに対して未成年よりも有意に高い満足度が得られていた。治療後は歯ブラシの習慣の改善に加え、成人では未成年に比べ自分の性格や習慣に変化が生じたと考えていた人が有意に多く、心理面での効果が認められた。
4. 他人の歯並びが気になると答えた患者は半数以下であり、他人の歯並びへの関心は低かった。将来、自分の子供に矯正治療を受けさせると考える患者は70%以上と高い割合を示し、治療の必要性や効果が評価されていた。

今回の調査により、患者・保護者の意識や要望を把握することができた。これらの結果はわれわれにとって示唆に富む内容であり、今後の矯正治療のあり方について検討していくことの必要性が示された。

文 献

- 1) 遠藤康子, 浅野央男, 土川登志子, 他. 不正咬合者の自己認識と矯正治療の心理的効果, 日矯歯誌 1982; 41: 665-679.
- 2) 土川登志子, 浅野央男, 大山正博, 坂本敏彦. 不正咬合にかかわる cathexis について, 日矯歯誌 1982; 41: 343-354.
- 3) 西田美穂子, 北井則行, 高田建治, 岩崎万喜子. 成人矯正患者の矯正歯科治療を受けた動機とその主訴に関するアンケート調査. 近東矯歯誌 1996; 31: 15-21.
- 4) 石川哲也, 山本照子, 佐々木真一, 他. 不正咬合・矯正治療が及ぼす心理的・機能的影響: 岡山大学歯学部附属病院矯正科におけるアンケート調査. Orthod Waves 1999; 58: 65-77.
- 5) 前田真琴, 高橋ユミ, 朝倉照雄, 他. 矯正治療に対する患者, 保護者の意識, 日臨矯誌 1994; 6: 37-45.
- 6) 高口真奈美, 井藤一江, 山部耕一郎, 他. 矯正治療結果に対する患者・保護者の意識について: アンケート調査より. 日矯歯誌 1990; 49: 454-465.
- 7) 荒川幸雄, 小泉和浩, 末石研二, 他. 矯正治療に対する患者と担当医の意識調査: 効用値を用いた検討. 日矯歯誌 1996; 55: 353-363.
- 8) 府川俊彦, 荻部 充, 神山 寛, 他. 成人の矯正治療に対する意識調査: 患者及び矯正歯科医のアンケ

